

「安心して失敗できる教室・学校に」

先日、配付させていただいた『大きな宝（学校評価のまとめ）』でお伝えしたように、本校では「まずは安心して学級」を全教員が共有して、取り組んでいます。

現代社会は、デジタルコミュニケーションの増加により、対面でのコミュニケーションが減少し、誤解や感情の伝達が難しくなることがあります。また、忙しい生活や仕事のストレスが原因で、家族や友人との時間を十分に取れないことが多いです。さらに、個人主義の進展により、孤独感を感じる人が増えています。特に高齢者や若者に多く見られるそうです。

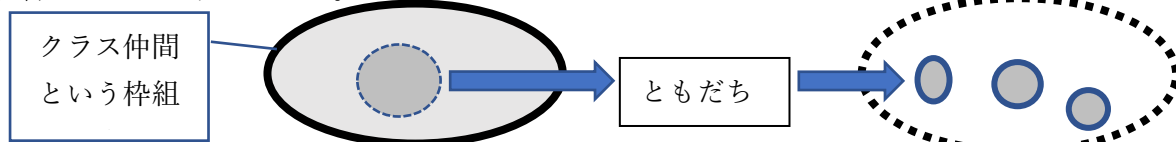
また、グローバル化により、異なる文化や価値観を持つ人々との交流が増え、理解や共感が難しくなることもあります。さらに SNS 等による発信やつぶやきが「炎上」し、不特定多数から批判や非難の声が殺到するような世の中です。不安などが原因で、他者との関係を築くのが難しくなることもあるのが現状です。

このような時代を生きる子どもにとっても、人間関係の課題は多岐にわたります。まず、デジタル依存が増え、スマートフォンやタブレットの使用時間が長くなることは、対面でのコミュニケーションの減少につながります。それにより、社会的スキルの発達が遅れることもあるのです。加えて、子どもたちもストレスや不安を感じるが増えており、これが友人や家族との関係に影響を与えることがあります。

学校では、子どもたちが対面で交流することを大切にしています。もちろん、一人一台端末を用いての学習も系統的に行うものの、やはり、人との関わりや対話を楽しむことができるように、意見が異なる他者とも折り合いをつけながら互いに納得して協力できるように…と願って、教育活動を進めています。

ある研修会で講師の方から、次のような話をうかがいました。

― 集団としての学級が、児童個々に共同体意識や連帯感を持たせる力が減少したのではないかと…。集団への帰属感や居場所感があると、共同体意識が生じ、周囲からの支持や承認を感じさせてくれたり、クラス仲間の意識が高まったりするが、最近は**集団への帰属がもたらす共同体（仲間）意識は縮小化し、親密な友人（ともだち）関係が拡大化している**。個人的な好き嫌いを求心力とした「ともだち」が大きな影響力をもつようになった。―



― このように“**集団の支えの乏しい「ともだち」関係中心の人間関係**”により、教室の居心地はほとんどが親しい友だちの有無に依拠し、初日の学級編成を見て、「私の1年間は終わった」と感じる子がいる。また、好き嫌いの感情が中心なので、関係の強弱に波が大きい。さらに、「一人ぼっち感」は、裸のように無防備で教室にいるような感覚があり、周囲の視線が怖いという思いを引き出す。そして、一人ぼっち感は、自分が普通ではないことの証明と受け止め、自己否定感につながりやすい。―

子どもには、安心して失敗できる環境が必要です。失敗を繰り返しながら成長していくものです。「今まで通り」ではなく、新たな価値や方法を生み出す力が求められる現代は、特に子どもに「Trial and Error」「試行錯誤」の習慣を育てたいと考えます。そのために今後も、集団への帰属感や仲間意識を大切にしていきます。